

## ニワトリのおなら

むかしむかし、ある<sup>いえ</sup>家に、一<sup>いち</sup>羽のニワトリがいました。

ある<sup>ひ</sup>日<sup>こと</sup>の事。

ニワトリが庭<sup>にわ</sup>の木<sup>き</sup>にとまって鳴<sup>な</sup>いていると、その下<sup>した</sup>をキツネが一匹<sup>いっぴき</sup>通りま  
した。

キツネはニワトリを<sup>み</sup>見ると、何<sup>なん</sup>とか取<sup>と</sup>って食<sup>く</sup>いたいと思<sup>おも</sup>い、  
「ニワトリさん、とてもいい<sup>こえ</sup>声<sup>こえ</sup>ですね。でも、もっと下<sup>した</sup>で鳴<sup>な</sup>けば、もっとい  
い<sup>こえ</sup>声<sup>こえ</sup>が<sup>で</sup>出<sup>で</sup>ますよ」

キツネの<sup>ことば</sup>言葉<sup>ことば</sup>に、ニワトリは下<sup>した</sup>の枝<sup>えだ</sup>に飛<sup>と</sup>び移<sup>うつ</sup>って鳴<sup>な</sup>きました。

するとキツネは、

「ニワトリさん、前<sup>まえ</sup>よりもずいぶんいい<sup>こえ</sup>声<sup>こえ</sup>になりました。でも、もう一つ下<sup>ひと</sup>  
がらないと」

ニワトリは喜<sup>よろこ</sup>んで、もう一つ下<sup>ひと</sup>の枝<sup>した</sup>に<sup>えだ</sup>とまって鳴<sup>な</sup>きました。

ところがそこはキツネの<sup>あたま</sup>頭<sup>あたま</sup>のすぐ上<sup>うへ</sup>だったので、ニワトリはたちまちキツ  
ネに<sup>つか</sup>捕<sup>つか</sup>まってしまいました。

「ヒヒヒヒ。バカなニワトリさん。では、いただきまーす」

おお<sup>おお</sup>きな<sup>くち</sup>口<sup>あ</sup>を開<sup>あ</sup>けるキツネに、ニワトリはあわてて<sup>い</sup>言<sup>い</sup>いました。

「まっ、待<sup>ま</sup>ってください、キツネさん。

実は、おらの家<sup>いえ</sup>でも今夜<sup>こんや</sup>おらを食<sup>く</sup>うと言<sup>い</sup>っていたから、おら、闘<sup>たたか</sup>う武器<sup>ぶき</sup>として針<sup>はり</sup>を一本<sup>いっぽん</sup>盗<sup>ぬす</sup>んでおいたんだ。

尻尾<sup>しっぽ</sup>のところに隠<sup>かく</sup>してあるから、おらを食<sup>く</sup>うんだったらその針<sup>はり</sup>を抜<sup>ぬ</sup>いてか  
らの方がいいよ」

「そうか、それはご親切<sup>しんせつ</sup>に」

キツネはさっそく、尻尾<sup>しっぽ</sup>のまわりをさが<sup>さが</sup>してみました。

するとニワトリはキツネの顔<sup>かお</sup>めがけて、「ブッ！」と、おならを浴<sup>あ</sup>びせま  
した。

「わあっ～！」

キツネがビックリして手<sup>て</sup>をはなしたすきに、ニワトリは木<sup>き</sup>の上<sup>うえ</sup>に逃<sup>に</sup>げてし  
まいました。

おしまい